

社会参加 自分探しの旅

不登校の未来へ 鎌倉あそび基地 Largo と共に



鎌倉あそび基地 Largo のみなさんをつくった講演会きみの笑顔が見たい～不登校は自分探しの旅～、西野博之さん(左写真)に講演をお願いして本当に良かったです。ご挨拶いただいた松尾崇市長さん(右写真)は県議会議員の10年前に川崎市公設民営“夢パーク(NPO法人たまりば民営)”を訪問し西野さんと再会♡ 最後までゆっくり講演を聞いて頂きました。



西野さんは神奈川の顔、僕にとっては9歳年下のアニキ(笑)。武藤啓司・和田重宏・加藤彰彦・島根三枝子さんと並ぶ25年余人生の師の一人です。子どもの居場所を“たまりば”(多摩リバー)として28年間とどけ続けてきた逸材で、今年2月神奈川県弁護士会人権賞を受賞されたのも必然でした。おめでとうございます。

リフレインするモンゴル800 あしたにはゆめかなう

講演会2部はシンポジウム、Largo コーディネーターの僕は西野さんとスタッフ小林由起さんの対談を進行した。しかし不謹慎ながら僕の頭の中ではモンゴル 800(モンパチ)“夢叶う”が鳴り続けていました。♪明日にはゆめかなうゆめかなう いい風が吹く♪のリフレインと共に次のフレーズがお二人のお話に共鳴した。「誰がつくったあたりまえ 誰の目を気にして生きてゆく 勉強よりも何よりも 素晴らしい友をつくる」「人は日々生まれ変わる 僕等はどこかで間違った 下手くそな生き方を学んだ」「現実の海に溺れ 常識に泣くヒマはない ありのままのあなたの姿で 好きな事やるだけさ」(左下写真アルバム MESSAGE2001年) 我が家の2人の娘は



ロストジェネレーション世代(1970～1982年生)だ、モンパチと同世代なのだ。社会背景はバブル(地価高騰と金融そして不良債権山積=バブル)崩壊後のこの2千万人弱世代はフリーター、ニート、ひきこもり、派遣労働者…グローバル化や新自由主義経済の影響下、非正規雇用者が多い世代となり、老後2040年問題と不安をおおられている。だが果たしてそんなのだろうか? モンパチに代表される感性の凄さに未来を!

それぞれの風

○e28 G 男子: 中学1年後半から不登校で9年ひきこもって21歳、僕は2012年訪問で出会う。自宅でゲーム中心の生活、近所の音を気にする日々で眠りが浅く昼夜逆転。2年ぐらい医療と投薬=不安、うつ、発達障がい推測、改善せず。時々ボール運動に夜参加する。1年を経て会話がスムーズ、社会分析や自己表現が豊かで知的な高さを感じた矢先、「ゲームは飽きた」と言い学習や学校への興味を持ち始める。ゲーム



久里浜花の国 by 川辺悟史さん

用 PC2 台置く自室へ案内され、具体的な進路相談を受け一緒に検討する。親と話し合い2歳で関西の通信制高校に進学し自活生活を始めた。最近母親より SMS で近況をいただきました。「大学を3年で辞め4月から働き始めました。転勤で5月から東京に来ます。どうにか社会に出る事が出来、一安心です。ありがとうございました。」

○**e33 asamicro 女子**:5月連休に SICF20 PLAY 部門(コンテンポラリーダンス)出場の案内を頂いて表参道に出かけました。テーマは「朝ごはんダンス」。会場でお母様とあいさつし18年前のU中学校廊下での出会いがよみがえった。5月中旬、鎌倉駅前の喫茶店で年甲斐もなくケーキとお茶でお話して彼女の歴史を知りました。

彼女は小学校2年生からタイ卜な集団と給食に違和感を感じ学校へ行っていない。親は熱心に学校を促し研究所相談、病院へ行くも昼夜逆転治療と投薬に変化はない。とうとう医師は「学校へ行かなくていい、朝ごはんは食べよう」と一言、覚醒したのは5年生だった。両親と妹さんが出かけた後一人
味しい実感を得た彼女は
れ中学卒業まで学校へは
オごっこからダンスに関心が
学校、そしてスクールの講
い表現者の道を選んだ。
経験をしている子どもたちに



でつくり食べる朝食の清々しく美
相談教室で優しいW先生に癒さ
行かなかったが、一人遊びのラジ
広がりスタジオで習いながら専門
師を10年続けた。3年前自分らし
今彼女は自身の表現活動を同じ
届けたいと願っている。

実は昨年横須賀応援団の龍崎さんつながりでお会いし、今回の奇遇を実感でした。

コラム風 「生きている」ただそれだけで祝福される By 西野博之さん

先週末から上映が始まった映画“小さな恋の花”の宣伝に刺激された僕はモンパチの展開から最近の若者たち2人の紹介をしてしまいました。話は講演会にもどります。西野さんが語る生きることと命の大切さは人間至上主義(ホモデウス by YN ハリ)の「子どもの命を真ん中に置く」重要なテーマを提言。“学校”と“生きる力”のその先に“居場所”と“生き方”を展望できました。たまりばで過ごす子どもが「生きるかってなんですか？」と問うと大人は「出会いをものにする力」とのエピソードで結んでくれました。

Largo の子どもたちの声を高2の OK さんがスマホ画と声と文字で映像化してくれました。「学校を休みたいということがもっと気軽に言える日本になってほしい—」(上写真)は名言、改めて子どもから学んだ。大人(先生)は、命より重い学校を子どもに迫っているのですから。

最後に小林さんは学校社会に精神的に追い込まれる親の解放の道すじを語りながら、子どもの「好き」「したい」をはぐみあう幸せな親子家族関係を穏やかに語ってくれました。

6月予定 ○9日(日)14:00横須賀応援団会議:龍崎明信 in 横須賀市民活動サポートセンター ○16日(日)13:30逗子応援団会議 ひきこもり発信プロジェクト:新舛秀浩&ゆずり葉の会:橋本由美子 in 逗子市民交流センター 28日(金) 14:30~ 講演会“心の健康” in 汲沢中 by 滝田(よこはま子ども若者どこでも講座) ○研究所開催日3・10・17(月)・27(木)日 ○鎌倉市5・7・11・12・14・18・20・21・26・28日

【発行編集:滝田衛】住所:鎌倉市七里ガ浜東2-31-12 携帯:09072124055

●メール:qq5656r9@happytown.ocn.ne.jp ●研究所ホームページ:<http://shichirigaoka-lab.jimdo.com/>

●応援団フェイスブック:<https://www.facebook.com/kodomowakamono.ouendan/>